



乗用型ポット苗田植機を用いた雑穀の機械移植技術

【1 成果の内容】

水稲用の448穴乗用型ポット苗田植機は、下表に示した改良を行うことで雑穀の畑地移植に汎用利用でき、10aあたり50分程度の作業能率で苗の移植が可能です。改良に必要な経費は約15万円で、既存の田植機を活用することで導入コストを抑えられます。

表 雑穀を畑地移植するために必要な乗用型ポット苗田植機の改良点

部品	改良の内容	改良の効果
苗押出座	押出棒の片側を切断	条間が66cm、2条植えとなり雑穀栽培に適した栽植密度にできる
移植爪	先端の角度を変えた改良移植爪を装着	土の付着が減り、移植精度が向上する
ブラシ	移植爪接触部分に設置	移植爪に付着した土を除去し、移植精度が向上する
ウエイト	田植機フロントに装着	傾斜地での上りの走行が安定する
マーカ	柄の部分の長さを加工	移植の往復作業で、条間66cmを高い精度で確保できる



図 乗用型ポット苗田植機によるアワの移植状況（左）と移植後活着したアワの状況（右）

【2 気をつけること】

- (1) 根鉢がしっかりと形成された苗を育てるために、棚置育苗した苗を使用しましょう。
- (2) 移植前にはアップカットロータリで耕起するなど、十分に碎土を行って下さい。

【3 期待される効果】

- (1) 乗用型田植機のため、歩行型に比べ労力をかけずに雑穀を移植することができます。
- (2) 移植栽培により、中耕・培土で効果的に除草することができます。また、アワ・キビでは、直まきでしばしば発生するヒサゴトビハムシの被害を軽減することができます。

担当研究室 県北農業研究所 作物研究室

〒028-6222 岩手県九戸郡軽米町山内 23-9-1

TEL. 0195-47-1073 FAX. 0195-49-3011